



日本植物病理学会ニュース 第20号

(2002年12月)

【平成15年度会費納入のお願い】

平成15年度会費は、平成14年12月末日までに納入いただくことになっておりますが、未納の方が多くいらっしゃいますので、お手元の振込用紙を使用し早急に納入いただきますようお願いいたします。会費を納入されない場合は大会での発表ができなくなりますので、ご注意下さい。銀行口座からの自動振込を新たに希望される場合も、平成14年度内の自動振込手続きは終了しておりますので、今年度分は振込用紙を使用し納入して下さい。

なお、本学会は大部分会費により運営されており、また、学会誌に対する文科省補助金の申請に会費納入率が関係して参りますので、必ず期限までに会費を納入していただきますようお願い申し上げます。(学会事務局)

【今後の学会活動予定】

1. 平成15年度大会開催予定

日時：平成15年3月28～30日(金～日)
会場：明治大学駿河台キャンパス(東京都千代田区)
問合せ先：明治大学農学部植物病理学研究室内
平成15年度日本植物病理学会大会事務局
FAX: 044-934-7813
E-mail: byouri@isc.meiji.ac.jp

2. 談話会、研究会開催予定

(1) 第4回植物病原菌類談話会

日時：平成15年3月30日(日) 学会終了40分後
(18時～21時を想定しています)
会場：東京大学農学部2号館2F 227号室
問合せ先：富山県立大
佐藤幸生
E-mail: ysato@pu-toyama.ac.jp

(2) 第6回植物病害生態研究会

「植物ウイルス病害の生態 —現場からのアプローチ」

日時：平成15年3月31日(月) 9:00～15:00
会場：明治大学リバティータワー
(御茶ノ水キャンパス) 1階1011号教室
問合せ先：東北農業研究センター 地域基盤研究部
病害管理研究室 石黒 潔
TEL/FAX: 019-643-3465
E-mail: ishiguro@affrc.go.jp

(3) 第13回殺菌剤耐性菌研究会

日時：2003年3月31日(月) 9:30～16:15
会場：明治大学リバティータワー
(御茶ノ水キャンパス) 3階1031号教室
参加費：3,000円(学生または要旨集のみは2,000円)
参加申し込み：当日、会場にて受付
問合せ先：農業環境技術研究所
農薬影響軽減ユニット 石井英夫
TEL/FAX: 0298-38-8307
E-mail: hideo@niaes.affrc.go.jp

(4) 第8回バイオコントロール研究会

日時：平成15年3月31日(月)
会場：明治大学リバティータワー
(御茶ノ水キャンパス) 2階1021号教室
問合せ先：千葉大学園芸学部植物病理学研究室
第8回バイオコントロール研究会開催事務局
TEL/FAX: 047-308-8823
E-mail: yoshiame@faculty.chiba-u.jp

【今後の関連学会情報】

1. 日本農薬学会第28回大会

日時：平成15年3月22日～24日(土～月)
会場：名城大学(名古屋市天白区, 受賞講演, 特別講演, 一般講演, シンポジウム)

八事マルベリーホテル（名古屋市昭和区，懇親会・受賞祝賀会）

参加費：正会員 5 千円（3/1以降 7 千円），非会員 7 千円（3/1以降 9 千円），学生会員 2 千円（3/1以降 3 千円）

問合せ先：名古屋大学大学院生命農学研究科内
日本農薬学会第28回大会組織委員会

TEL: 052-789-4035

FAX: 052-789-4032

E-mail: totanaka@agr.nagoya-u.ac.jp

学会 HP: <http://www.soc.nii.ac.jp/pssj2/>

2. 第47回日本応用動物昆虫学会

日時：平成15年3月25日～27日（火～木）

25日：開会挨拶，学会賞授与式及び記念講演，総会，一般講演，懇親会

26，27日：一般講演，小集会

会場：一般講演・総会；岩手大学学生センター棟
懇親会；ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング

大会事務局：〒020-0198 盛岡市下厨川字赤平 4
（独）農業技術研究機構東北農業研究センター
畜産草地部家畜環境研究室内 応動昆大会事務局

大会 HP: <http://cse.naro.affrc.go.jp/siraisi/odokon/>

学会 HP: <http://odokon.ac.affrc.go.jp/>

3. 日本菌学会第47回大会

日時：平成15年5月31日～6月1日

会場：北海道大学学术交流会館

問合せ先：北海道大学農学研究科 植物病理学研究室
内藤繁男

TEL/FAX: 011-706-4938

【今後の関連国際学会情報】

1. The 8th International Congress of Plant Pathology (ICPP): Christchurch, New Zealand, February 2-7, 2003.

→<http://www.lincoln.ac.nz/icpp2003/>

2. The 15th International Plant Protection Congress (IPPC): Beijing, China, July 6-11, 2003.

→<http://www.ipmchina.net/ippc/index.htm>

【学会活動状況】

1. 研究会開催報告

(1) 第38回感染生理談話会開催報告

第38回植物感染生理談話会は，平成14年8月7日（水）～9日（金）の3日間にわたり，大山隠岐国立公園内の鳥取県大山町ホテル大山で98名が参加して開催された．今回は，現在の植物感染生理談話会に名称変更となつて丁度20年目ということもあり，「植物－微生物相互作用研究の現状と将来展望」というテーマで，病害をウイルス病，細菌病，菌類病に大別し，最新の研究成果の話題提供（ウイルス病：愛媛大学西口正通氏，岩手大学吉川信幸氏，岡山大学玉田哲男氏，細菌病：農業生物資源研究所落合弘和氏，農業生物資源研究所佐藤守氏，菌類病：京都大学高野義孝氏，鳥取県園芸試験場田平弘基氏，岡山大学豊田和弘氏）に加えて，ウイルス病：京都大学奥野哲郎氏，細菌病：静岡大学露無慎二氏，菌類病：名古屋大学道家紀志氏より，それぞれ研究の現状と将来展望が述べられた．また，初日の午後には，鳥取大学医学部押村光雄教授による「がんと老化の接点」と題する特別講演が行われた．最後に，岡山大学白石友紀氏に総合討論の座長をお願いし，今後の具体的研究について活発な論議がなされた．初日には夕食を兼ねた懇親会をホテル屋上で開催し，2日目の午後には大山散策を企画したところ，いずれも天候に恵まれ好評であった．また，2日目の夜には，昨年に引き続き大学院生を中心に14題のポスター発表が行われ，予定時間をかなりオーバーするほど活発な討論や交流がなされた．今回は，参加者の投票によるベストポスター賞を設け，島根大学木原淳一氏が受賞された．平成15年度の談話会は，名古屋大学道家紀志氏のお世話で開催される予定である．

（尾谷 浩）

(2) 第21回土壌伝染病談話会開催報告

平成14年8月21日（水）～23日（金）に岐阜県高山市の高山市民文化会館にて第21回土壌伝染病談話会を開催しました．参加者総数は160名．今回の土壌伝染病談話会は21世紀に入って初めての会であることから，テーマを「21世紀における土壌伝染病研究の課題と展望」としました．難防除病害といわれて久しい土壌病害ですが，臭化メチル全廃が目前に迫りつつある現在，その代替技術として着目されている生物防除技術の開発は焦眉の急となっています．土壌病対策で悩む高冷地野菜の産地を舞台に，各演者が示した，「土壌病害の生物防除機構の解析」，「土壌病原菌の生態解析」，「土壌病原菌の遺伝子解析」，の研究内容を概観しながら，参加者一同が土壌病害研究の新たな方向

性について議論を深めあって、盛会裏に終えることが出来ました。幅広いテーマでしたが、各演者の方々が、講演内容に関連した世界の研究動向をレビューした上で、各自の具体的な研究内容を織り込んで下さったお陰で、参加者が理解し易かったのが良かったと思います。講演会終了後にエクスカージョンとして高山市周辺のハウレンソウ熱水土壌消毒圃場、夏秋トマト土壌還元法消毒圃場、および水稲の送風防除水田を見学しました。エクスカージョン参加者数は60名。高冷地野菜の産地は8月でありながら、すでに初秋の気配が漂っていました。(百町満朗)

(3) 第3回植物病原菌類談話会

第3回植物病原菌類談話会を平成14年4月5日学会終了後、大阪サンパレスで開催し、150名のご参加を頂いた。よくわかる形態と分子系統入門—その2—「炭疽病菌をめぐる諸問題」ということで、炭疽病菌の形態分類と遺伝子解析を用いた新たな分類を取り上げた。矢口行雄氏(東京農大)には「炭疽病菌等の生態と分類のための手技」ということで、とくにユニークな分離法を用いた生態的研究を中心に紹介いただき、佐藤豊三氏(生資研)には「炭疽病菌の形態分類・同定の概略と課題」として、炭疽病菌の分類学的基礎としての形態的形質の捉え方と今後の課題や悩みを講演していただいた。さらに、本橋慶一氏(北興化学)による「鎌形分子を持つ炭疽病菌の分子系統」と森脇丈治氏(北陸農試)による「炭疽病菌の分類に分子系統解析のメスを入れる」では、遺伝子解析を用いた最近の分類学的研究を紹介いただき、炭疽病菌の新たな課題を提起していただいた。最後に、総合討議・手技等に関する質疑を行うとともに、アンケート調査をさせていただいた。幅広い参加者から活発な質疑があり、炭疽病菌の手技、見分け方、分類の動向に強い関心が持たれていることが伺われた。次回の予定は15年度大会終了後に東京大学農学部で「卵菌類」をテーマに開催を予定(詳しくは本談話会ホームページを御覧ください)。(佐藤幸生)

1. 部会活動状況

(1) 部会開催状況

①北海道部会

平成14年10月24～25日

北海道農業研究センター(札幌市)

②東北部会

平成14年9月26～27日 プラザおでって(盛岡市)

③関東部会

平成14年9月27～28日

千葉大学園芸学部(松戸市)

④関西部会

平成14年9月28～29日 三重大学(津市)

⑤九州部会

平成14年9月19～20日 高城会館(諫早市)

(2) 部会開催報告

①北海道部会

平成14年度北海道部会は、10月24日(木)と25日(金)の2日間にわたって、北海道農業研究センターで100余名が参加して開催された。24日は、午後1時30分から第189回談話会を行った。「最近、注目された病害の研究の現状と展開方向」のテーマのもと、眞岡哲夫氏(北海道農研センター)からパパイヤウイルス病、堀田治邦氏(道立花・野菜技術センター)からゴボウ黒条病、白井佳代氏(道立中央農試)からいもち病、奈良部孝氏(北海道農研センター)からパスツリア細菌を用いたネコブセンチュウの防除について、最近の興味深い研究成果が報告され、活発な討論が行われた。夕刻には、懇親会が行われ、なごやかな歓談が2時間余りにわたって続いた。翌日25日には、午前9時30分から一般講演が行われた。20題(菌類病関係11、細菌・放線菌病関係3、ウイルス病関係4、生物防除等2題)の研究成果が午前11題、午後9題発表され、熱心な質疑応答がなされた。また、2日目の午後の講演に先立って行われた総会では、行事や会計等の部会会務が報告、承認され、また、学会誌への投稿と学会員の勧誘について協力を求め、次期部会長として北大の内藤繁男氏が選出された。(高橋賢司)

②東北部会

平成14年度東北部会は9月26日午後1時～27日午後12時30分まで、盛岡市の“プラザおでって”において98名の参加を得て開催された。講演総数は34題で、ウイルス・ウイルス病関係が19題、菌類・細菌病関係が15題で、活発な討論が行われた。第一日目の講演終了後、会場を“エスポワールいわて”に移し部会幹事会が行われ、本部会への県農試関係者の出席促進対策、幹事会に出席できない場合は代理を出席させること等が討議された。その後同じ会場で懇親会が催され、地元を代表し岩手農業研究センター長・高橋 壯氏より歓迎の挨拶を頂いたがその中で、“今回の部会ではいもち病の発表が1題もなかった、いもち病研究者は奮起せよ”と檄を飛ばされた。今でもいもち病がイネの最大の脅威であることに変わりはなく、いもち病研究者の奮起を促された。続いて懇親会は賑やかに進行し、東北

大学の池上正人氏の中メで終了した。2日目午前の総会では庶務、会計報告、新幹事が承認され、次期部会長に山形大学の生井恒雄氏が承認された。また、次年度から講演要旨集を部会参加者に配布すること、15年度部会開催地は宮城県、開催地幹事として東北大学の高橋英樹氏が承認された。一般講演後、今回はより広範な職場からより多数の参加者を期待して14年度部会を閉会した。(内藤秀樹)

③関東部会

平成14年度関東部会は、9月27日(金)、28日(土)の2日間にわたり、千葉大学園芸学部(松戸市)キャンパスにおいて開催された。本部会は従来1日で開催されていたが、近年の講演題数の増加に伴う発表・討論時間の不足を解消するため、2日間開催が今回初めて採用された。参加者は180名に達し、演題数は50題で、その内訳は菌類病関係27題、細菌・ファイトプラズマ病関係12題、ウイルス・ウイロイド病関係10題、センチュウ防除1題であった。講演は1日目29題、2日目21題に分かれて発表されたため、大会並みの発表と討論時間を確保することができ、活発な質疑応答が交わされた。昼食時にもたれた評議員会では、本部会は今後も2日間開催とすることで了承されたが、時間的に余裕があれば特別講演などを盛り込んでより充実した部会にする方向で検討するとの合意を得た。また、1日目の講演終了後はキャンパス内の生協食堂において、約70名の参加者を得て懇親会がもたれ、脇本名誉会員の音頭による乾杯の後、なごやかな歓談が2時間あまり続けられた。盛会裡に部会を終了することができ、会員諸氏のご協力に感謝する次第である。(雨宮良幹)

④関西部会

平成14年度関西部会は、開催地委員長の久能均氏、幹事の高松進氏を中心に周到に準備され、9月28日(土)、29日(日)の2日間にわたり、三重大学キャンパスで開催された。委員長の提案によりノーネクタイ等、カジュアルな服装の259名が集い、リラックスした雰囲気の中にも活気に満ちていた。講演演題数は84題(糸状菌病：分子生物学11；感染生理24；同定・分類・発生生態22，細菌：5，ウイルス病：12，防除関連：11)で、3会場に分かれて発表され、活発な質疑応答があった。1日目の講演発表会終了後、同大学食堂において恒例の懇親会が133名の参加をえて盛大に行われ、会員間の公私にわたる懇親が深められた。部会役員会は、部会の1日目の午前中に同大学の会議室において開催され、行事、役員異動、会員数等の庶務報告、会計報告などの案件が審議・承認された。また、部会

会則に基づく選挙により平成15年度の部会長に本田雄一氏を選出された旨報告があり、承認された。部会事務幹事に荒瀬栄氏が推薦され承認された。平成15年度の部会は奈良県の近畿大学で開催することが承認され、開催地委員長に豊田秀吉氏が、開催地幹事に松田克礼氏が承認された。これらの審議・承認案件は同日午後の部会総会で提案・審議され全てが承認された。総会終了後、一般講演に先立ち恒例の部会長講演が、「感染に対する植物のオキシダティブースト現象について」と題して行われた。(道家紀志)

⑤九州部会

平成14年度九州部会は例年通り九州農業研究会と共催で、9月19日(木)に諫早市の高城会館で開催された。講演題数は27題、その内訳は細菌病・ファイトプラズマ病4題、菌類病9題、防除薬剤関連等4題、ウイルス・ウイロイド病10題で、参加者約100名による熱心な討議が行われた。昼の休憩時間を利用して幹事会が開催され、役員の交代、会計報告、次年度開催計画等が審議された。また、平成16年度九州地区担当予定の日本植物病理学会大会は、福岡市に建設中の福岡国際会議場にて平成16年3月28～30日に開催予定であることが報告された。部会終了後、恒例の日本応用動物昆虫学会九州支部との合同懇親会が盛大に行われた。翌日20日には植物病理関係者による第27回シンポジウムが開催された。「自然界で見られる植物ウイルスの組み換え現象について」(佐賀大学 富村健太氏)、「チャ赤焼病の発生生態—特に氷核活性細菌との関係について」(鹿児島茶試 富濱毅氏)、「大気中の二酸化炭素の増加がイネのいもち病感受性に及ぼす影響」(九州沖縄農研中島隆氏)、「国際協力を見たパラグアイの農業—野菜栽培を中心として—」(元JICA長期専門家 佐藤俊次氏)の4題の話題提供があり、活発な論議が行われ、盛会であった。(高浪洋一)

【学会事務局コーナー】

「Hazen 博士による英文原稿校閲サービス」

JGPP のすべての英文原稿を校閲して頂いている米国の Hazen 博士より、日本植物病理学会員が他誌に投稿する英文原稿を個人的に校閲するサービスを開始したいとの連絡がありました。同博士は JGPP の英文校閲を永年行っているために我々の癖を熟知しており、適切な英文校閲が期待できます。校閲料は1時間当たり40\$と設定されていますので、英文を書き慣れておられる方には格安となります。メールでも受け付け、クレジットカードで支払いできますので、御利用いただきたいと思ひます。詳細は下記

を御覧下さい。

Beth E. Hazen, PhD, English editor for the journals of the Phytopathological Society of Japan and for American Journal of Botany, also edits manuscripts for submission to international journals such as Molecular Plant-Microbe Interactions, Phytopathology, Microbiology, and Bacteriology. Manuscripts can be submitted by e-mail or by mail for editing on hard copy or electronic file. Editing fees are USD 40.00 per hour and can be paid by bank check drawn upon a US bank, electronic bank transfer, or major credit card. To request editing or obtain more information, you can contact Dr. Hazen at: **willows.end@hotmail.com** or beh27@cornell.edu. (久能 均)

【会員の動静】

学位取得者（課程博士・論文博士）

小堀 崇 H14. 3 東京農工大学 博士（農学）
高温感受的全身感染性宿主植物におけるキュウリモザイクウイルスの感染過程の解析

【学会ニュース編集委員会コーナー】

情報提供および投稿のお願い：

本ニュースは身近な関連情報を気軽に交換することを主旨として発行されております。会員の各種出版物の御紹介、書評、会員の動静、学会運営に対する御意見、会員の関連学会における受賞、プロジェクトの紹介などの情報を

お寄せいただきたくお願いいたします。

投稿宛先：〒170-8484 豊島区駒込1-43-11

日本植物防疫協会ビル内

日本植物病理学会事務局

学会ニュース編集委員会

FAX: 03-3943-6086

または下記学会ニュース編集委員へ：

松山宣明, 塩見敏樹, 竹内妙子, 宇佐見俊行,
田中 稔各委員宛

編集後記

学会ニュース第20号をお届けします。年の瀬となり各地の部会あるいは談話会の開催報告が寄せられております。会員の皆様の活発な学会活動の一端を伺い知ることが出来、誠にご同慶の至りです。一方、これまで学会を様々な場面で支えてこられた先達のご逝去の報に接し、長い間のご尽力に心から感謝申し上げますとともに、惜別の念を禁じ得ません。（松山宣明）

会員のご逝去

永年会員の土屋行夫氏は平成14年8月19日に逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。